

英語教育実践論(4)

教材研究 Do's and Don'ts

南村俊夫

B 統語法 (文法)

「教材研究 Do's and Don'ts (3)」に続いて(4)を述べていく。(4)では主として動詞・助動詞を中心とした項目を取り上げた。また、ノンブルはすべて(3)に続いて進めてある。

② be going to ~ の意味

Do's and Don'ts 46

be going to ~ は「~するつもりだ」の他に「~しそうだ」の意味がある。後者の場合、単に「~しそうだ」とだけ訳してはいけない。「今にも/すぐにも~しそうだ」と訳せ。その未来の兆候が現れているからである。

be going to ~ には二つの意味がある。一つは the future of present intention (Leech Meaning) で「~するつもりである」と訳す意味である。主として、主語が人間の場合である。もう一つは、the future of present cause (現在に兆候を持った未来) (Leech Meaning) である。この意味では人間と人間以外のものも主語に用いられる。例えば、It's terribly cold - it's going to snow. (WBW) は前半の It's terribly cold. が「現在の兆候」であり、その兆候から生まれる「未来」が It's going to snow. なのである。文全体を訳すと「ひどく寒い。雪になりそうだ」となる。このことから be going to を考えると、the future of present cause の意味で使われている場合は必ずある「兆候」が示されているか、前後から判断できる場合である。I'm going to be sick. 「吐きそうだ」という英文では、どこかに I feel awful. のような「兆候」を探す必要があると言えよう。しかも、この現在の兆候の故に、すぐ近い未来が示される。従って、先ほどの「雪になりそうだ」でも「吐きそうだ」の例でも日本語では「今にも」のような言葉を添えて訳すのがよい。一方、この「今にも」の気持ちのないのが will である。It will snow. だけでは「今にも」は示されておらず、単に未来を予測するだけなのである。従って、It will snow a great deal this winter. のように遠い未来でも構わないことになる。次に、be going to ~ が「~するつもりだ」の意味ではよく「-人称+will」の場合と比べられる。この違いにも

少し触れておこう。もっとも大きな違いは意図があらかじめ決まっているか、その場で意図されたものかの違いである。前者が *be going to* であり、後者が *will* と言えよう。次の二つの対話文 (EGU) で比べてみよう。

— Tom is cooking, when he suddenly finds that there isn't any salt.

Tom : Ann, we haven't got any salt.

Ann : Oh, haven't we? I'll get some from the shop then. (*she decides at the time of speaking*)

[トムが料理をしていると突然塩のないことに気が付く]

トム: アン, 塩がないよ。

アン: あらそう。じゃあお店で買ってくるわ。(話の中で彼女が決める)

— Before going out, Ann talks to him.

Ann : I'm going to get some salt from the shop. (*she has already decided*)

Can I get you anything, Jim?

[外出する前にアンがジムに話をする]

アン: 店で塩を買ってくるわ。(アンはすでに決心している) ジム何かあなたに買って来ましょうか。

この対話例でもわかるように *will* は話しの途中で決心した場合であり、*be going to* はあらかじめ決心している場合ということになる。だから、例えば、会話の途中で「うん、いいよ」などと言う場合は *Yes, I will.* となることがよくわかる。

[指導] *be going to* の意味の指導は次のように行くとよい。

T : 次の文を見て下さい。(点線部のみ板書またはプリント)

用 例	説 明
(1) Helen's の自転車パンクし、Helen は父親に話す。 H: My bicycle has a flat tire. Can you repair it for me? F: OK, but I can't do it now. I'll repair it tomorrow.	<i>Will</i> : 話しているその時、何かをしようと決心したら使われることが多い。
(2) その後、Helen の母親が夫に話す。 M: Can you repair Helen's bicycle? It has a flat tire. F: Yes, I know. She told me. I'm going to repair it tomorrow.	<i>be going to</i> : 何かをすでにしようと心に決めている場合に <i>be going to</i> は使われることが多い。

(1)の対話文を訳してみてください。S1 君。

S1: ヘレンが、私の自転車がパンクしたから、お父さんに修理してくれないかと頼むと、お父さんが、いいよ、でも、今はできないから、明日修理する、という対話文です。

T: Very good. では、(2)の対話文はどうですか、S2 さん?

S2: ヘレンのお母さんがお父さんに、ヘレンの自転車がパンクしたから、修理してくれないかと言うと、お父さんは、うん、わかっている、ヘレンが言ったよ。明日修理するよ、と答えています。

T: Very good. では、will と be going to の意味の違いを考えてみましょう。will では父親が「自転車のパンクを直す」という決心をしたのはヘレンがその話しを切り出してからです。一方、be going to が使っている(2)では、母親が、ヘレンの自転車のパンクを父親に頼んだ時以前から父親はヘレンの自転車を修理しようと考えていました。そこでこの2つの例から考えて、will は「話しをしているその時に何かをしようと思つた場合」、be going to は「話しをしている以前からあることをしようと思つている場合」という使い分けがあるのです。これが be going to と will の違いと言えましょう。be going to にはもう一つ、現在にその兆候が表れている未来を表す場合があります。次の文を見て下さい。

Listen to the wind. We're going to have a rough crossing. (板書 PEG)

この英文の意味が分かりますか。S3 君。

S3: Crossing はどういう意味ですか。

T: 海峡をわたるという意味です。

S3: では、「あの風の音を聞いてみなさい。海峡をわたるのは大変だぞ」くらいの意味ですか。

T: その通りです。この be going to を考えてみましょう。これは未来のことを言っているのですが、その未来のことがらの兆候が現在にあるという場合の未来について be going to が使われるのです。ですから、「あの人を助けてあげて下さい、今にも倒れそうだ。」などの未来に使われるのです。be going to の意味が分かりましたか。

指導例

sentence の中での指導 : Look at those black clouds. It's going to rain.

(EGU) She is going to have a baby. (PEU)

A: Where are you going? Are you going shopping?

B: Yes, I'm going to buy something for dinner.

(EGU)

23 進行形と be going to

Do's and Don'ts 47

進行形が未来を表す場合は「～する予定」と訳すのでは不十分である。「～することになっている」と訳すとよい。進行形には未来の意味があるのだが、その未来は予め決まっている未来を表すからである。

未来を表す be going to と進行形はどのように違うのだろうか。Leech の *Meaning* は次のように説明している。'Like *be going to* + Infinitive, the Present Progressive refers to a future happening anticipated in the present. But there is a subtle difference: it is not a present intention or cause, but rather ARRANGEMENT that is signalled by the Progressive.' 「be going to + 不定詞と同様、現在進行形も現在において期待されている未来を示す。しかし、両者にはわずかだが違いがある。現在進行形によって表されるのは現在の意図とか原因ではなく、成り行きなのである。」

その例として *She is getting married this spring.* や *We are having fish for dinner.* などの例をあげている。前者の場合は「結婚はすでに決まっている」し「メニューはすでに定まっている」のである。では be going to とは どう違うのだろうか。次の例を使って Leech の *Meaning* は以下のように説明している。

- (1) I'm going to take Mary out for dinner this evening.
- (2) I'm taking Mary out for dinner this evening.

(1)は話者の意図を示し、「今夜はメアリーを夕食に連れだすつもりだ。」となるのに対し、(2)は arrangement を表すというのである。intention (意図) が現在の「心の持ちよう」であるのに対し、arrangement は「(話し手の今の気持ちに関係なく)すでに過去において決められているもの」なのである。従って、(2)はそういう具合に決まっている事に気が進まないと思っている話し手によって言われることが十分考えられ、それ故に、言い訳として次のように使われることが多いと言うのである。

I'm sorry, I'd like to have a game of billiards with you, but I'm taking Mary out for dinner. 「申し訳ない、君と撞球のゲームをやりたいのだがメアリーを今夜食事に連れて行くことになっているんだ。」

[指導] 未来を表す進行形の指導は次のように行うとよい。

T: 次の文を見て下さい。You mustn't go out tonight, Bill, because Tom and Kate are coming to see us. 意味はわかりますか。S1 君。

S1: 「ビル、今夜は出かけないでよ、トムとケイトが遊びにくるんだから」です。

T: Very good. この訳でよいのですが、これだと、are coming to see us という進行形の意味がはっきりしないのです。もう一つ英文を見てみましょう。Tom is arriving at eight tomorrow evening. という文を考えて下さい。「トムは明日

の夕方8時に着きます」という未来を表す文ですが、実際の意味は「トムは明日の夕方8時に着くことになっている」つまり、そのような手配がしてある、という意味なのです。willを使った、Tom will arrive at eight... は「トムは8時に着く予定（着くか着かないか分からない）」や、Tom arrives at eight... 「トムは8時に着く」のような言い方とは違って、そのようにあらかじめ決められている、というのです。進行形が未来を表す場合はこういう意味になることが多いのに注意して下さい。

指導例

sentence の中での指導：Mr. Smith is having an operation next week.

(KE V)

We are inviting several people to a party.

(CGE)

Mary is playing in a concert on March 27. (KE

V)

②4 過去完了+ (時間・距離) + before / when

Do's and Don'ts 48

過去完了+ (時間・距離) + before / when の訳は before / when の後の方から訳さないで、文の前の方から「…して (ある時間 (距離) たって) …する」のように訳せ。hardly ... when などの文型にも通じる。

次のような過去完了を使った表現を考えてみよう。I had just had my dinner when a friend called and asked me out to one of the best restaurants in town. (ESL GQ) この文を「友人が電話してきて、町で一番のレストランに行こうと誘ってくれた時は、私は夕食をちょうど食べ終わったばかりの時だった」のように訳してもよい。だが、「私が夕食をちょうど食べ終わったばかりの時、友人が電話してきて、町で一番のレストランに行こうと誘った」のように訳す方が日本語になるのではなからうか。もう一つ例をあげてみよう。The sky had been black for some time before the rain began to fall. (EIU) の文は「しばらくの間、空は暗かったがやがて雨が降り出した」という訳になろう。これを「雨が降り出す前にしばらく空は暗かった」のように訳すのではやはり不十分ではないだろうか。この文は「過去完了+ (幅のある) 時間・距離+ before (when) …」という文型である。この文型から「(幅のある) 時間・距離」が「あるかないか」という「時間・距離」になると for some time や a mile という具体的な句の代わりに hardly や scarcely という語を使うことになる。I had scarcely gone to bed when the telephone rang. (UEET) 「ベッドに入ったとたん電話がなった」の文に見られる hardly / scarcely … when (before) の文型である。上の例を I had gone to bed for some time when the telephone rang. のようにすると

「私がベッドに入ってしばらくすると電話がなった」のようになるはずである。このように考えると過去完了+（時間・距離）+ before / when … の表現は before / when の前の方から訳していく方が hardly / scarcely … before (when) の文型にも通じる訳になる。

【指導】 過去完了+（時間・距離）+ before / when の指導は次のように行う。

T : 過去完了は知っていますね。次の文を見て下さい。I had already eaten dinner when he called. どんな意味でしょう, S1 さん。

S1: 「彼が電話をかけてきた時、私はもう夕食をすませている」です。

T : Very good. 私が夕食をすませてその後彼から電話があった、という意味ですね。この文の下線部を次のように代えてみましょう。

(1) I had already eaten dinner when he called.

(2) I had eaten dinner for some time when he called.

(2)の文は(1)の文の下線部 already を for some time に代えたものです。この文はどういう意味でしょう。S2 君。

S2: 「彼が電話をかけてきた時は私が夕食を食べてしばらくしてでした」です。

T : Good. (2)の英文の訳はそれで間違いではないのですが、「私が夕食を食べてしばらくして彼が電話をかけてきた」と訳した方が日本語としては普通でしょう。ところで、already は「すでに」という完了を表す語ですね、これを for some time 「ある時間」という期間を表す語に代えたために、「もう夕食をすませている」から「夕食を食べてしばらくして」のように変わったわけですね。(1)や(2)の下線部の語・句を代えることによってよく知っている文が生まれます。例えば、(1)の already の代わりに hardly にしてみましょう。hardly の意味がわかりますか、S3 さん。

S3: 「かろうじて」とか「ほとんど～ない」です。

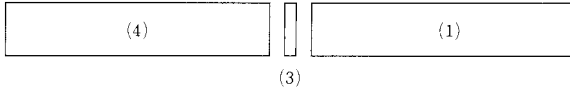
T : Good. (1)の下線部を hardly に代えると (3) I had hardly eaten dinner when he called. になります。hardly が「かろうじて」とか「ほとんど～ない」の訳になるということは実は not と already の間に hardly の文が来るということなのです。(1)の訳はもうわかりますね。(4)の文は「私がまだ夕食を食べ終わっていない時彼が電話をかけてきた」の意味です。英文を時の順に並べると

(4) I had not eaten dinner when he called.

(3) I had hardly eaten dinner when he called.

(1) I had already eaten dinner when he called.

のようになります。これを表で示してみましょう。



このことから、(3)の意味は「私が夕食を食べたか食べないかのうちに彼が電話をしてきた」という訳になるのです。いわゆる **hardly ...when** への構文です。これまでは「時間」を表す語・句を入れてきましたが今度は「距離」を表す語・句を置いてみましょう。次の文を考えて下さい。(5) **Tom had gone out a mile when it began to rain.** という文です。「時間」の場合と同じように考えてみて下さい。S4 君？

S4: 「トムが出て1マイルほどしたら雨が降り始めた」です。

T: Good. つまり、雨が降り出した時点はトムが家を出て1マイル行った所だ、という訳ですね。(5)の文を否定文にしてみましょう。(6) **Tom had not gone out a mile when it began to rain.** という文になります。前半の **Tom had not gone out a mile** を日本語に訳して見て下さい。S5 さん。

S5: 「トムは出かけて1マイルたっていなかった」です。

T: Good. では(6)の文全体はどうでしょう。

S5: 「トムが出かけて1マイルもたたないうちに雨が降り始めた」となります。

T: Very good. このように「過去完了+ (時間・距離) + **before / when**」の構文は **hardly...when** ~などと同じ考え方をして訳していけばよいのです。

指導例

sentence の中での指導： **Ann had just got home when I phoned her.**
(EGU)

John had been living in London for ten years when the war broke out. (EIU) **Peter had been asking Mary to marry him for three years before they were engaged.** (EIU)

②5 must と have to

Do's and Don'ts 49

must と **have to** を同じ意味で考えてはいけません。**must** は「自ら」の、**have to** は「他から」の強制がある。従って、**must** は「私が命じている」の、**have to** は「他の人が」、あるいは「…があるから」などの気持ちを入れて訳せ。

must と **have to** は中学校ではほとんど同じ意味で教えられる。教育的配慮である。**must** と **have to** はどのような違いがあるのだろうか。PEUは次のように述べている。

“Both of these are used to talk about obligation. Their meaning is not quite the same. *Must* is most often used to talk about an obligation that depends on the person speaking or listening: If I say that you or I must do something, I probably mean that *I* feel it is necessary. *Have (got) to* is generally used to talk about obligations that come from ‘outside’. If I say that somebody *has to* do something, I probably mean that another person wants it done, or that there’s a law, a rule, an agreement, or something of the kind. Compare:

I must stop smoking. (I want to.)

You must try to get to work on time. (I want you to.)

You’ve got to go and see the boss. (He wants you to.)

Catholics have to go to church on Sundays. (Their religion tells them to.)’

「この二つは『義務』を示すのに使われる語である。二つの語の意味は必ずしも同じではない。*Must* は主として話し手・聞き手から出された義務を述べるものである。もし *You or I must do something* と言えば、他ならぬ私がそれを必要としているという意味である。*Have (got) to* は主として私以外の外から出される義務を述べるのに使われる。もし、*Somebody has to do something.* と言えば、別の人がそれをしろとか、法律が、あるいは同意などがあってそれをしなければならないという場合に使われるのである。次を比較してみよう。

私はたばこをやめねばならない。(私自身がやめたいと思っている。)

君は時間に遅れないように仕事に行かなければならない。(私が望んでいる。)

君は行ってボスに会わなくてはならないよ。(ボスが望んでいる。)

旧教徒達は日曜の度に教会に行かなくてはならない。(宗教的な理由でそうしなくてはならない。)

この説明からもわかるように、*have to* は「他からの強制による」ものであり、*must* は「話し手が強制力を発揮した」ものである。

【指導】 *must* と *have to* の指導は次のように行う。

T: 「ここで泳いではいけない」という英語を考えて下さい。どのように言えばよいと思いますか、S1 君。

S1: Don't swim here. です。

T: Very good. 同じ内容を別の言い方で言うことはできませんか、S2 さん。

S2: You must not swim here. です。

T: That's right. では2つの文を見て下さい。

(1) Don't swim here.

(2) You must not swim here.

この2つに共通していることは相手に対して I である「話し手」が強制力

を持っている、ということなのです。この文では **must not** ~ですが、**must** の場合でも同じなのです。**must** を使った文をいくつかあげてみましょう

(3) I'm so fat. I must go on a diet. (BDE)

(4) You must be careful of traffic when you cross the road. (LFD)

(3)は自分からダイエットをしよう、と自分に対して強制力を働かせている場合で、(4)は話し手が聞き手に「気を付けなさいよ」と強制力を働かせている場合なのです。ですから、例えば、*I must stay in - but I'm going out. (WBW) という文は意味の上からはおかしいということになります。(3)、(4)の2つの例は1人称、2人称ですが、3人称の場合も同じで、例えば、Tom must get up earlier. という文は話し手が聞き手に対して、トムがもっと早く起きるように言うか、何らかの手をうつ、と言っているのです。**must** が義務・必要の意味で使われるのがどういう場合か分かりましたか。これに対して **have to** の表す義務・必要は話し手の強制力ではなく、周囲の状況からそうせざるを得ないという場合に使われる義務・必要なのです。**have to** の例を見てみましょう。

(5) I have to be home by eight. I have a lot of studying to do tonight. (UUEG)

(6) He ran out of money, and therefore had to look for a job. (CGE)

(5)と(6)の文を訳してみてください。(5)をS3君で(6)をS4さん。

S3:「8時まで家に帰らねばならない。今夜は勉強することがたくさんあるんだ」です。

T: Good. では(6)を訳してください。

S4:「彼はお金がなくなったから仕事を探さねばならない」です。

T: Very good. (5)の場合では、勉強しなければならないことがたくさんあるということから家に帰らねばならないという必要が生じているので、話し手、つまりIの気持ちは入っていないのです。(6)は「仕事を探さねばならない」という必要は「金がなくなった」からで、話し手の意志は関係がないのです。**must** と **have to** とはこのような違いがあることを知っていて下さい。

指導例

sentence の中での指導: I **must** make an appointment with the doctor.

(I've got toothache.) (PEU) / I've **got to** see the dentist tomorrow. (I have an appointment. (PEU)

②6 must, need to と should / ought to

Do's and Don'ts 50

should や ought to が「義務・必要」を表す場合は「～したらどうか」くらいに訳すとよい。should も ought to も共に「助言・忠告」に近い意味となるからである。

「～しなくてはならない」「～すべきである」の意味を表すのに must, need to, should / ought to がある。このそれぞれは「義務・必要の強さ」の度合いが違っている。Leech の *Meaning* は次のように述べている。“In terms of meaning, *need to* is half way between *must* and *ought to* : it asserts obligation or necessity, but without either the certainty that attaches to *must* or the doubt that attaches to *ought to*.” 「意味に関して言えば, *need to* は *must* と *ought to* の間だと言ってよい。つまり, 義務や必要は表すものの, *must* にある確実性や *ought to* にある不確実性がない。」このように述べて, 次の scale を示している。

SCALE OF INTENSITY

-
- (1) You must get a hair-cut (most categorical)
 (2) You need to get a hair-cut
 (3) You ought to get a hair-cut

これをもう少し詳しく説明してみよう。まず must だが, 話し手から要求が出る義務である。そのため, (1)は Get a hair-cut. とほとんど同じ意味を持ち, どうしても You が「髪を刈らねばならない」ことを暗示するのである。ought to は should と同じ意味である。(3)の You ought to / should get a hair-cut. は「髪を刈ったらどう」くらいの意味で, You が「髪を刈る」かどうかは You まかせなのである。「義務・必要」と言うより「助言・忠告」に近いものと言える。need to は(1)と(3)の中間に位置する。(1)の他からの強制による確実性もなければ, (3)の不確実性もない。ただ, 周囲の状況から *necessity* が生じているだけだ, と考えていけばよい。Leech の SCALE は(1)~(3)になるにつれて *intensity* が減じてくるのである。

[指導] must, need to, should / ought to の指導は次のように行う。

T : You must wait here. という英文を考えて下さい。相手に対して「ここで待ってくれ」という話し手の強い意志を示しているものです。では次の文の意味を考えてみて下さい。This is a good book. You should read it. どういう意味ですか, S1 さん。

S1: 「これはよい本だから, 君は読むべきだ」です。

T : Very good. では, 「読むべきだ」という意味を考えてみましょう。次の対話を読んでみて下さい。

(アドバイザーと生徒との対話のプリントを与える)

S : Mrs Wilson, what do you advise me to do about my chemistry class? Should I drop it or continue with it?

W: I think it would be a good idea to talk with your instructor. Try talking with her about the problems, and see what she suggests.

S : What if she says I should continue in the class?

H: Then follow her advice. She doesn't want to fail you.

(*Functions Water Matreyek*)

このプリントの対話を訳せますか。S2 さんが W の方を、S3 君が S の方を訳して対話をして下さい。

S3: ウイルソン先生。僕の化学の授業について何か忠告をしてくれませんか。あの授業をやめるべきですか、それとも続けるべきですか。

S2: 先生と話し合ったらどう。問題点を先生と話し合って、先生がどうか聞いてみたら。

S3: もし先生が授業を続けたらと言ったらどうでしょうか。

S2: じゃあその通りにしたら、君を落第させることはないと思うよ。

T : Very good. そこで、英文を見てみましょう。生徒の発言の中に Should I ...? という英語が出てきます。これは、アドバイザーに助言を求めたこととなりますね。これに対して、You should という代わりに I think it would be ... つまり、You should ... と答えているのです。次に2番目のSの発言の中に、What if she says I should ...? とありますね。I should はインストラクターが「～したらどうかしら」と言った表現です。これに対してアドバイザーは Then follow her advice. と述べています。What if she says I should ...? の should や最初の Should I ...? の should が助言だとわかりますね。このように should には「忠告・助言」の意味があるのです。ですから should を「～すべきだ」という日本語に訳すのは「～したらどうだい」という忠告・助言を表す意味だ、ということがわかりますね。should や ought to にはこのように must や need to より弱い意味があるのです。must, need to, should / ought to の強さを比べておきましょう。(Leech の Scale of Intensity を見せる)

指導例

sentence の中での指導 : You must have a passport before you go abroad.

(OELD)

You need to learn the value of money. (LDCE)

Forty cigarettes a day! You ought not to smoke so much. (EIU)

②7 義務・命令を表す be to

Do's and Don'ts 51

「義務」を表す be to は have to などと同じ場面に使われると考えてはいけない。be to は他の人の命令があったから、have to は周囲の状況から「～しなければならない」のである。

「～せよ」という場合、命令文、must, have to を使う以外に be to を使う表現がある。You're always to knock before you enter my room. 「君は私の部屋に入る前にはいつもノックをしなければならない」(GPU) の場合である。be to の「義務」とはどういう場合の義務なのだろうか。Leech の *Meaning* は次のように述べている。

“AM/IS/ARE TO. This construction, consisting of the finite form of the verb to be followed by to + infinitive, is similar in meaning to *have (got) to* and *ought to*; in fact, it can frequently be substituted for either of these modal forms. Its main difference from *have (got) to* is that its principal meaning includes specific idea of 'ordering' or 'commanding':

He is to return to Germany tomorrow.

(The most likely meaning here is 'He has received explicit orders to return to Germany.')

Occasionally *am/is/are to* is used in a quasi-imperative way by the person actually giving the orders. *You and the others are to report back to me at dawn tomorrow.*”

「AM/IS/ARE TO. be 動詞 + to 不定詞でできているこの構文の意味は *have (got) to* と *ought to* の意味と似ている。事実、この二つのうちのどちらとでも交換可能な場合が多い。*have (got) to* との主な違いは be to の主たる意味が「命令」というこの構文特有の意味を持っていることである：

He is to return to Germany tomorrow. (この意味は「彼はドイツに帰れという命令を受けた」である。)

be to は時として実際に命令を出すその人物が使って命令文に準ずる表現として使われる。「君たち全員は明日の夜明に私に報告をしてくれ。」

以上をもう少し詳しく説明してみよう。be to が You を主語にした場合に must とほとんどその意味は変わらない場合がある。これに対して主語が 1, 3 人称 (時に 2 人称) の場合は、その主語に対して何らかの命令があった、という時に be to が使われている。例えば、He is to stay here till we return. (PEG) では、我々から彼に対し、Stay here. という命令が出されているのである。

[指導] be to の指導は次のように行う。

T : be + to 不定詞に「命令・義務」、つまり「～しなければならない」の意味があることは知っていますね。must や have to などとどう違うか考えてみましょう。次の英文を見て下さい。

(1) He says that we are to wait till he comes. (PEG)

(2) Mother is much better but the doctor says she's not to get up yet.

この2つの英文は be to ~の構文をもった文です。(1)の文の意味がわかりますか、S1 君。

S1: 「彼は彼が来るまで待てと言っている」です。

T : Good. では、(1)の意味が分かったところで、この文を直接話法にしてみましょう。S2 さん。

S2: He says to us, "Wait here till I come." です。

T : Very good. では同じように(2)の文を訳して下さい。S3 君、どうですか。

S3: 「母はずいぶんよくなっているが、医者はまだ起きてはいけないと言っている。」

T : Good. では、(2)の文も(1)と同様に but 以下を直接話法にして下さい。S4 さん。

S4: but the doctor says to her, "Don't get up yet." です。

T : よくできました。直接話法にした文には共に命令文が入っていますね。この命令は(1),(2)それぞれの場合は誰の命令でしょうか、S5 君。

S5: (1)は「彼」の命令で、(2)は医者^の命令です。

T : その通りです。そこで、be to 不定詞が「義務・命令」を表す場合の意味が分かりましたか。つまり、be to 不定詞が表す「義務・命令」はその命令なり、義務なりが話し手からでも、周囲の状況からでもなく第3者から出てることが多いのです。例えば、I'm not to speak to strange men. という文は他の人から知らない男に話しかけるなど言われている、ということを表すのです。その他の人をはっきりさせると、この文は、My mother told me I was not to speak to strange men. (GPU) のような文になるわけです。また、You are to knock the door. という文では「ドアをノックするように言われているだろう」という意味にだど解釈できるのです。(もったいも、主語がyouの場合には、時に、話し手が命令の主体となって「ドアをノックするよう言ってるじゃないか」のような意味を持つ場合があります。) そのため、例えば、This exit is not to be used except in case of emergency. (DI) のような掲示などにこの表現がよく使われてる、ということも知っていて下さい。

指導例

sentence の中での指導 : No one is to leave this building without the permission of the police. (PEG) He said that if he fell asleep at the wheel she was to wake him up. (PEG)

②⑧ would と used to

Do's and Don'ts 52

used to は「昔は～だった」とだけ訳すと不十分である。過去と現在を対比した表現のため「昔は～だったが今は違う」と訳せ。これに対し、would は昔を回想するだけの表現で、「昔はよく～したなあ」くらいに訳せ。

過去の事柄を述べるのに would と used to が使われる。She would often come home tired out. 「彼女はよく疲れ切って家に帰ったものだった」(GPU) や He doesn't work here now, but he used to. 「彼は今はここでは働いていない。昔は働いていたが」(LDCE) の場合である。この両者は共に「過去の習慣」を表す用法だと言われている。両者が同じ意味で使われるかと言うと必ずしもそうではない。used to は過去の状態・動作のいずれにも使われ、「昔はそうだったが今は違う」と過去にはあったが現在にはないということを対比しながら述べているのに対し、would (often) は過去を回想的に「(今はないが) ～があったなあ」と振り返る表現なのである。語法的には used to の後には動作の動詞も来れば、状態の動詞も来て構わないのだが、would often の後には動作の動詞しか来ないことに注意したい。

[指導] would (often) / used to の指導は次のように行う。

T: 次の文を見て下さい。There was a post office here. この文の意味は分かりますね。この文は「ここには(昔)郵便局があった」という意味です。この郵便局は今もうない、ということが過去形で表されているのです。この「今はない」という意味をはっきり表したい場合は There used to be a post office here. のように used to を使えばよいのです。つまり、used to は過去において習慣的なことから、あるいは恒常的な状態、言い替えば、あることがあった(をしていた)が、今はもうない(していない)という意味を表すのです。used to を使った文を見てみましょう。

(1) There used to be a post office in the village but they've closed it now.
(WBW)

(2) He doesn't work here now but he used to. (LDCE)

このそれぞれを日本語にしてみてください。S1 君と S2 さん。

S1: 「昔はこの村には郵便局があったのだから、今は閉鎖されている」です。

T: Good. S2 さん。

S2: 「彼は昔はここで働いていたのだが、今は働いてはいない」です。

T: 分かりましたね。used to は「昔は～だったが今は～していない」という意味なのです。次の文を見て下さい。During the summer we would sit on the beach for hours. (SD) この英文を訳してみてください。S3 君。

S3: 「私達は夏によく何時間も浜辺に座っていたものだった」です。

T: Good. この文は「夏によく浜辺に座っていたなあ！」と回想しているものです。もちろん、今はそんなことはないのはいうまでもありません。従って、When I was young I often used to go / I would often go swimming before breakfast. (WBW) のように used to と would を同じ意味で使うこともできます。もっとも I used to like icecream. のように、後に状態の動詞が続く場合は would を使うことができません。また、used to も would も回数を表す場合は使われないことを知っていて下さい。

指導例

sentence の中での指導 : I used to have an old Rolls Royce. (PEU)

We used to go to that restaurant a lot. (CD)

The children would play for hours on the beach.

(WBD)

29 不定詞・動名詞の意味

Do's and Don'ts 53

a book to read は「読んだ本」ではない。「これから読む本」である。同様に to swim in the river は「その川で泳ぐとしたら」の意味である。不定詞には未来志向、未経験などの気持ちが入っている。

不定詞の意味を考えてみよう。a book to read は「読む本」の意味だが「まだ読んでいない、これから読む本」なのである。It's dangerous to swim in the river. の to swim は「これから泳ぐとしたら」の気持ちが入っている。to-不定詞がこのように未来志向をもっている理由は to の意味にあるのではないと思われる。つまり、to が方向を表す前置詞であるため「→」の気持ちが入ってくるのではないかと、言うわけである。このような不定詞の意味を Leech の *Meaning* は Theoretical Meaning と呼んでいる。これに対して動名詞には Factual Meaning があると言う。この違いを同書の説明から引用してみよう。

- (a) It's a pity (for Bill) to refuse such an offer. (IDEA)
- (b) It's a pity that Bill refused such an offer. (FACT)
- (c) It's nice to be young.
- (d) It's nice being young.

以上の例をあげて次のように説明している。

“Firstly, it may be noticed that the theoretical examples (a) and (c) contain infinitive constructions, where the factual sentences (b) and (d) contain a *that*-clause and a gerund construction.

Secondly, with regard to meaning, it may be noted that the factual sentences imply the truth of the statements they contain, whereas the theoretical sentences do not. Thus sentence (b) lets us know that Bill *did in fact* refuse the offer: sentence (a) does not tell us whether he did or not. The factual sentence, we may say, is TRUTH-COMMITTED, whereas the theoretical sentence is TRUTH-NEUTRAL (that is, leaves the question of truth and falsehood open).” (Leech *Meaning*)

「まず、第一に、理論上の例文(a)と(c)は不定詞の構文を使う、それに対して、事実の例文(b)と(d)は *that*-節と動名詞の構文を使っている。第二に、意味についてだが、事実の例文はその文が表している事柄が事実を踏まえたものであるのに対し、理論上の文はそうではない。つまり例文(b)の文は、ビルが実際にその申し出を拒絶した、ことを我々に知らせるものであり、例文(a)は、彼がそうしたかどうかについては我々に何も知らせてはいないのである。言うなれば、『事実』の文は事実に基づいたものであり、『理論』の文は事実に関してはどちらとも言えない文なのである。」

これをもう少し詳しく説明してみよう。例えば、(e) *It's dangerous to swim in the river.* (f) *It's dangerous swimming in the river.* の二つの文では (e)は、その川で泳いだことのない人が「あの川で泳ぐと危険だ」と周囲の状況から判断して述べる場合であり、(f)は、その川で泳いで危険な目にあった人が「あの川で泳ぐと危険だ」と言っていると考えるとよい。

このように *to*-不定詞には未来志向及び未経験の意味が入っている。もっとも、この *to*-不定詞のこの意味を全部に当てはめようとしてはいけない。Leech は “But these correlations should not be pressed too far. After some verbs of reporting, for example, the *to* + Infinitive construction is factual.” 「しかし、この(不定詞・動名詞などの)相互の関係はすべての場合に当てはまるものではない。例えば、ある伝達動詞の後では *to*-不定詞の構文は事実を述べるものがある。」として、*I know him to be an imposter. = I know he is an imposter.* の例をあげている。

[指導] 不定詞・動名詞の意味の指導は次のように行う。

T: 次の文を見て下さい。(1) *It's no good writing to him; he never answers letters.*

(PEG EX1) どういう意味だと思いますか。S1 君。

S1: 「彼に手紙を書いても無駄だ。彼は手紙の返事を書かないのだから」です。

T: Very good. もう少し考えてみましょう。(1)の文を言った(書いた)人は彼に

手紙を書いたことがある、と思いますか。S1 君。

S1: 思います。

T: そうですね。(1)の文を言った(書いた)人は彼に手紙を書いて返事をもらえなかったことが何度かあったことがこの文から窥えます。もう1つ例を見てみましょう。(2) It's no good talking to him, because he never listens. (LDCE) この文の意味はどうですか。S2 さん。

S2: 「彼に話をしても無駄だ。彼は人の話に耳を傾けようとはしないから」です。

T: Very good. (2)を言った(書いた)人も(1)の場合と同様、彼に話をしたことがあると考えられます。そうすると動名詞を使った文を言った(書いた)人は、その動名詞で表されることがらを実際に行ったということが窺えるのです。従って、動名詞の文があればそれは事実に基づいたものだな、と感じていかなければならない、ということになります。次の文を見て下さい。Stop talking, children. Get on with your work. (LDPV) この文を訳してみてください。S3 君。

S3: 「みんな、おしゃべりをやめて勉強に精を出しなさい」です。

T: Very good. この文でも子ども達はおしゃべりをしているということが分かりますね。動名詞の意味は「事実」に基づいたことがらを言っているのです。次に、(1)の文に、(1') It's no good writing to him; he never answers letters. The only thing to do is to go and see him. (PEG EX1) のように下線部が付け加わっている文があるとしましょう。下線部の文を訳してみてください。S4 さん。

S4: 「なすべき唯一のことは行って彼に会うことだ」です。

T: Good. では下線部の the only thing to do はこの文を言ったか書いた人がやったことでしょうか。他の例で考えてみましょう。the book to read は「読んだ本」でしょうか、それとも「読んでいない」本でしょうか。S5 君。

S5: 読んでいません。「読むべき本」ですから。

T: Good. ですから、the only thing to do も同じように「これからすること」なのです。不定詞にはこのように「実際にはやっていないが」という気持ちが入っている場合が多いのです。そこで、この文を日本語にするとすれば、「(もしやるとすれば) 行ってかれに会うくらいしかありませんね」のように言っているのです。不定詞は動名詞と違って、実際に起こったことではなく、「(やってはいないが) ~するとすれば」のような気持ちを込めて訳せばうまくその意味が伝わるのです。動名詞と不定詞の意味がわかりましたか。

指導例

sentence の中での指導 : It's necessary to work hard to succeed.
(ESP) It's natural for parents to love their
children. (NHL) It's wonderful lying on the
beach all day. (GPU) It's fun going up in a
helicopter. (LES)

(30) allow + O + to-不定詞

Do's and Don'ts 54

allow は「許可する」とだけ訳してはいけない。「放っておく」と訳す場合があることを忘れるな。O + to-不定詞が表す「主語・動詞」の関係(ネクサス)が主文の主語にとって都合が悪い場合が多い。let にも同じ意味がある。

allow に allow something to happen by not making any effort to prevent it 「放っておく、そのままにしておく」の意味がある。You shouldn't allow such trifles to worry you. (MEF) は「そのような些細なことがあなたを悩ませるのをそのままにしておくなんてだめだよ」の直訳から「そんな些細なことでくよくよ悩んではだめだよ。」くらいの訳になる。このように allow には「許可する」の他に「放っておく、そのままにしておく」の意味があることを生徒はほとんど知らないと言ってよい。allow と同じように let にもこの意味がある。We can't just stand by and let them turn the school into a shopping mall. 「我々は黙って立って学校がショッピングセンターになるのを放っておくことはできない」(LLA) の文に見られる let である。

[指導] allow + O + to-不定詞 の指導は次のように行う。

T : 次の文を見て下さい。You cannot allow children to do exactly what they want all the time. (WBW)

この英文は分かりますか、S1 君。

S1: 「子どもがしたがることをそのままいつもいつもさせてはだめだ」です。

T : Very good. この訳でよいのですが、allow という動詞には allow something to happen by not making any effort to prevent it という意味があります。この意味を日本語にしてみましょう。S2 さん。

S2: 「何かが起こるのを妨げる努力をしないことによってそれが起こるままにしておく」くらいの意味ですか。

T : それでいいのですが、結局どういうことですか。

S2: 要するに、「放っておく」とか「そのままにする」ということです。

T : Very good. その訳をさっきの英文に入れて訳してみるとどうなりますか。S3 君。

S3: 「子どもがしたがることをいつもいつもそのまま放任しておくのはいけな

い」くらいの訳ですか。

T: その通です。allow には「許可する」の意味の他に「放任する」や「そのまま放っておく」の意味があります。let も allow と同じ意味ですから、let の場合も同じように訳してみてください。

指導例

sentence の中での指導：The government has allowed the present economic crisis to get completely out of control. (LLA) We must not allow these temporary plans to affect our long term plans. (Cambridge)

(31) bother to / fail to / learn to + 原形

Do's and Don'ts 55

fail to, learn to などは fail や learn の動詞の意味をそのまま訳すのでは不十分である。fail to は cannot の, learn to は「覚えて(学んで)～するようになる」の意味で訳せ。

不定詞が動詞の目的語になる場合、その動詞の意味をそのまま訳すより、すこしずつらして訳す方が日本語としてよくわかる場合がある。例えば、The swimmer failed to reach the shore. (Hornby Guide) この文の fail to を「失敗した」と訳すことは可能である。が、「その泳者は岸に着くことができなかった」のように訳す方が普通であろう。同じように learn to は She learnt to drive a car. (PEG) では「彼女は車の運転を覚えた」のように「覚えて～するようになる」と訳した方がうまくいく場合がある。fail to の場合は cannot fail to ～で「必ず～する」のような慣用表現や learn to では learn の代わりに get や manage などを使う場合や、さらに意味を拡大すれば、grow to ～「大きくなって～するようになる」や turn out (prove) to ～「後で～とわかる」のような慣用的な用法も視野に入れて考えるとよい。

[指導] bother to / fail to / learn to + 原形の指導は次のように行う。

T: 次の文を見て下さい。He failed to see the truth. (Palmer) この文の意味が分かりますか、S1 君。

S1: 「彼は真実を見ることに失敗した」です。

T: Good. それでよいのですが、fail to ～を「～することに失敗する」と訳す他に「～できない」と訳していく場合があります。これを使うとこの文は「彼は真実を見ることができなかった」という訳になります。もう1つ例をあげてみましょう。He failed to let us know that he would be late, so we were very worried. (WBW) この英文の意味も分かりますね。S2 さん。

S2: 「彼は遅れることを我々に知らせることができなかった、それで我々はひどく心配した」です。

T: Very good. fail to ～はこのように「～できない」と訳すのですが、その意味

はWBWによると「期待されている、あるいは必要なことができない」という場合に使われる表現なのです。ですから、最初の文では、彼は「真実を知る」ことが必要あるいは期待されていたにも拘わらずできなかった、と言っているものであり、後の文では、彼は「遅れることを当然知らせねばならなかった」にも拘わらず知らせることができなかった、という意味になります。それでは次の文を見て下さい。Harry managed to swim across the river. (Hornby Guide) 意味は分かりますね、S3君。

S3:「ハリーはなんとかその川を泳いで渡った」です。

T: Good. manage の意味は succeed in doing something difficult after trying very hard, especially when you almost do not succeed (LEA) です。日本語にしてみましょう。「特に成功のおぼつかない時、困難なことを努力して行い成功する」となります。従って、Harry managed... の文では swim across the river は Harry にとってはなかなか成功を期しがたいことなのでしょう。さて、fail to ~や manage to ~はそれぞれ「~できない」、「どうにか~する」と訳し、「~することに失敗する」や「~することを成し遂げる」のように目的語の to 不定詞の方から訳すのではない、ということに気がつきましたか。不定詞が動詞の目的語になる場合、この2つの動詞のように本来の動詞の訳から少しずらして訳すとうまくいく動詞があるのです。例えば、learn to ~ の場合を考えてみましょう。

I learned to read when I was six years old. (BDE) この英文を訳すとどうなりますか、S4さん。

S4:「私は6歳の時ものを読むことを習った」です。

T: それでよいのですが、learn to ~は「~することを習う」と訳すより、「習いおぼえて~する」と訳す方がうまくいく場合があります。先に述べた、fail や manage の場合と同じなのです。つまり、単に「~することを習う」と訳すより、「おぼえて~する」と訳す場合です。I learned to read... の文は、従って、「私は6歳の時ものが読めるようになった」という訳になるでしょう。bother to や grow to ~なども考えて下さい。

指導例 * sentence 中での指導 : Don't bother (trouble) to meet me. (GPU)

I fail to see what you mean. (Hornby Guide)

She has learned to swim with ease. (KE V)

(32) 使役動詞 have と get

Do's and Don'ts 56

原形不定詞を使う使役動詞 have と to-不定詞を使う使役動詞 get の意味を混同してはいけぬ。前者は「命令」の気持ちが強し、後者は「お願い」の気持ちが強し。

「…に～させる」の意味の語、いわゆる使役動詞は [S + V + O + 原形不定詞] と [S + V + O + to-不定詞] の2つの型で表される。例えば、原形不定詞を取る使役動詞 make は compel, force, oblige という to-不定詞と意味がほぼ同じであると考えられる。これを表にしてみると次のようになる。

A 使役動詞(原形不定詞)	B 使役動詞(to-不定詞)	おおまかな日本語の意味
make	compel, force, oblige	強制して～させる
let	allow, permit	許可して～させる
bid	order, tell	命じて～させる
help	help	手助けして～させる

この表に現れていない使役動詞がある。それがAに入る have である。この have に対してよく get がBであげられることが多い。この2つの動詞の意味を考えてみよう。

Don't be impudent young man! I'll have you know that I'm manager here. 「おい、若い、いい気になるなよ。俺がここの支配人だということを今にわからせてやるからな」(EIU) の I'll have you know について EIU は 'This implies that I'll make you understand in no gentle manner!' 「この文には、どうあってもお前にわからせてやるの気持ちが入っている」というのである。EIU は更に5つの例文をあげ、'In these examples people are caused to act by invitation, request, demand or even force according to circumstances.' 「これらの例から (have を使う場合は) 人々は勧誘、要請、強要あるいは強制されてある行動を起こすのがわかる」と述べている。従って、have の意味は「勧誘、要請、強要あるいは強制して人に～させる」の意味があることがわかる。

これに対して get はすこし異なった意味を持っている。EIU は次のように述べている。

'The person who uses this form of speech (get + O + to infinitive) intends to cause someone to act, usually by persuasion or careful 'management.' There is not, generally, any suggestion of authority or command. Kind words, flattery, gentle persuasion, coaxing and suggestion may all be used to get somebody to do something.' 「この文型 (get + O + to 不定詞) を使う人は普通、説得や入念に手を尽くし人に何かをさせようと

考えている。一般に上からの命令のような気持ちはこの文型にはない。それどころか、丁寧な言葉を使ったり、甘言を弄したり、優しく説得したり、おだてたり、遠回しに言って人に何かをさせるのである。

EIU にあげられた例を見てみよう。Mary has spent all her pocket money. She'll get her father to give her some more. 「メアリーは小遣いをみな使ってしまった。彼女は父親を口説いてもっとくれるようにさせるつもりである。」この例では Mary が flattery や coaxing を使って小遣いをねだる様子がよくわかる。このように、使役動詞 get は「人に頼んで、おだてて、ねだって～させる」などの意味を表すのである。

have と get は使役動詞だが、前者は「命令」の気持ちがあるのに対し、後者は「ねだって」の気持ちがあることに注意したい。

[指導] 使役動詞 have と get の指導は次のように行う。

T : 使役動詞の have と get の違いを説明しましょう。次の文を見て下さい。

(1) She told the taxi driver to call at seven o'clock. (EIU) 意味は分かりますね。

S1 さん。

S1: 「彼女はタクシーの運転手さんに7時に来るように言った」です。

T : Very good. この文の「言った」は実は「命じた」と言ってもよいことがわかるでしょう。ではこの文を別の動詞を使って表してみましょう。いいですか。

(2) She had the taxi driver call at seven o'clock. (板書) この英文は(1)の文とだいたい同じ内容になっています。(2)が(1)と違うのは動詞が(1)では tell + O + to 不定詞、(2)では have + O + 原形不定詞となっている点です。(1), (2)がほとんど同じ意味なら、(2)の have の意味は(1)の tell の意味と同じと考えればよいわけです。tell の意味は「言う、命じる」ですから、have の意味もそう解釈すればよいことになります。従って、have + O + 原形不定詞を使った文では、場面によって have を「命じる」と訳すとよいのです。使役の have は命令、強制などに使われる場合が多いということを知っていて下さい。次の文を考えてみましょう。

(3) Mary will ask her father to clean her bicycle. (EIU) どういう意味になりますか。S2 君。

S2: 「メアリーは父親に自転車をきれいにすると頼むだろう」です。

T : Very good. この(3)の文と、Mary will get her to clean her bicycle. が同じ意味なのです。have の場合と同じように考えると get の意味は「頼んで、お願いして」とか、場合によっては「おだてて」などの意味になるのです。次の文を訳してみましょう。I'll get my brother to look after the house while we are away. (EIU) S3 さん。

S3: 「私達がいないうちは弟に家を見てもらうよう頼もう」です。

T : Good. この文では「お願いする」という意味がよく分かりますね。have や get が使役の意味で使われる場合はこの2つの意味の違いに注意して下さい。ただ、Peter has his car cleaned. のような S + V + O + 過去分詞の場合は have と get の意味の違いはほとんどないと考えて下さい。

指導例

sentence 中での指導 : What a woman! She had me show her every hat in the shop ! (EIU)

You have broken my window with your football.

I'll have you pay for it. (EIU) Mrs Smith can

get her husband to do any thing she likes. (EIU)

Peter has been trying to get Mary to marry him for years. (EIU)

33) I saw him run. / I saw him running.

Do's and Don'ts 57

I saw him run. と I saw him running. を同じ意味で考えてはいけません。前者は「走り始めから走り終わるまで」ずっと彼を見ているのであり、後者は「彼が走っている途中を見た」のである。

使役動詞の場合と同様、知覚・感覚動詞と言われる feel, see, hear, watch, notice, observe etc. の動詞も [S + V + O + 原形不定詞] の形を取る。I saw him run. の形である。この文型とよく対比されるのが、I saw him running. の [S + V + O + ~ing] である。この2つにはどういう意味の違いがあるのだろうか。

主として、see, watch, hear などの動詞の場合、PEU は次のように述べている。

'After see, watch, and hear, an -ing form suggests that we observe part of a complete action; when we start looking or listening it is already going on. The infinitive is used when we want to suggest that we observe the whole action from beginning to end.' 「see, watch と hear の後では -ing 形はある行動の一部を見る、つまり見あるいは聞き始めた時にはすでにその行動は始まっていることを暗に示している。不定詞の方はある行動を最初から最後まで一部始終見することを暗示する場合に使う。」

この説明の例として、(a) When I walked past his house, I heard him practising the piano. と (b) I heard Oistrakh play the Beethoven violin concerto last night. の2つをあげている。(a)の意味は「彼の家の前を歩いていたら、彼がピアノの練習をしているのが聞こえた」で、聞こえたのは「ピアノの練習の途中の一部」なのである。一方 (b)は「昨夜、オISTRAKHがベートーベンのバイオリンコンチェルトを演奏するのを聞いた」の意味で、オISTRAKHの演奏を始めから最後まで全部聞いたことがわかる。

同じことが see や watch などの動詞の場合にも言える。ではなぜそのような意味の違いが出ているのだろうか。それは [S + V + O + 原形不定詞] と [S + V + O + ~ ing] の下線部に見られる nexus (主述の関係) のためだと考えられる。I saw him cross the street. では下線部には He crossed the street. という関係が成り立ち、I saw him crossing the street. では下線部に He was crossing the street. の関係が成り立つのである。この2通りの主述の関係を考えてみよう。前者は「ある行為が終了した」の意味合いがあり、後者には「ある行為の途中である」という意味合いがある。これらは、過去形と過去進行形の持つそれぞれの意味合いなのである。このように I saw him run. と I saw him running. にはそれぞれの文中に組み込まれた元々の文の意味が生き残っているのである。

[指導] I saw him run. (知覚動詞 + 原形不定詞) と I saw him running. (知覚動詞 + 現在分詞) の指導は次のように行う。

T: (1) I saw him run across the street. という文をみて下さい。英文の意味がわかりますか、S1 君。

S1: 「私は彼が走って通りを渡るのを見た」です。

T: Very good. (1)の文の下線部を考えてみましょう。この下線部からは He ran across the street. ということがらが読みとれるのはわかりますね。ですから、(1)の英文の意味は「彼が通りを渡り切ったのを見た」と言っているのです。では次の文を見て下さい。(2) I saw him running across the street. という文です。この文の下線部を(1)と同じように考えるとどうということがわかりますか、S2 君。

S2: He ran across the street. という文ですか。

T: (2)の文には running という形が出ています。S2 君の文ではどこにも running がないのですが、どうすれば running の形になりますか。

S2: He was running across the street. ですか。

T: Good. 進行形にすれば running が表れるのですね。さて、この進行形の文の意味を考えてみましょう。

He was running across the street. は「彼がその時通りを横切って走っていた」という意味ですね。

He ran across the street. He was running across the street. の違いを考えてみましょう。どんな違いがわかりますか。S3 さん。

S3: 過去形の方は動作が完結しているが、進行形の方は動作が未完結です。

T: Very good. I saw の後にこの2つの文が組み込まれている(1),(2)の文もそれぞれの組み込まれている文の意味が反映しているのです。それを入れてうまく(1),(2)を訳してみてください。S4 さん。

S4: (1)は「彼が通りを渡って行ったのを見た」で、(2)は「彼が通りを渡っているところを見た」です。

T : Very good.

指導例

sentence の中での指導 : I heard the doorbell ring. (NHL) I heard my father making coffee. (BE) I saw her turn the corner. (NHL) I saw him kissing her. (NHL) Let's sit here and watch the moon rise over the sea. (KE V) We watch the children playing in the school yard. (MEF 2)

(34) I had my watch fixed. / I had my watch stolen.

Do's and Don'ts 58

「have + 目的語 + 過去分詞」の表現を「使役」に訳すか[受け身]に訳すかは、それぞれの文中に組み込まれた nexus が文中の主語にとって都合がよいかどうかによって考えよ。大まかに、よければ「使役」、悪ければ「受け身」である。

「have + 目的語 + 過去分詞」の表現は「～させる (～してもらう)」と「～される」の意味に分かれる。前者を使役と呼び、後者を「受け身 (経験受動態)」という。同じ形式なのに、二つの意味に分かれてくるのはどういう場合だろうか。それぞれの例を考えてみよう。

[使役] We ought to have her examined by the doctor. 「私達は彼女を医者に見せるべきだ。」(ISED)

Do you have your windows cleaned every month? 「毎月窓拭きをしてもらいますか」(PEG)

He had a bad tooth taken out. 「彼は悪い歯を抜いてもらった。」(ISED)

[受け身] My friend had his watch stolen. 「私の友人は時計を盗まれた。」(University)

They had their house broken into again. 「彼らの家はまた泥棒に入られた。」(WBW)

He had two of his teeth knocked out in the fight. 「彼は喧嘩で歯を2本折られた。」(PEG)

[使役]、[受け身]のそれぞれの文の下線部を考えてみよう。下線部にはいわゆる nexus つまり、主語動詞の関係がある。例えば[使役]の最初の文では下線部は「彼女が医者からの診察を受ける」の意味となる。また、[受け身]の最初の文は「彼の時計が盗まれた」の意味である。この2つの意味のうち、前者は文の主語にとって

下線部が都合がいい（具合がいい）ことがらであり、後者は都合が悪いことになっているのがわかる。

つまり、「have + 目的語 + 過去分詞」の表現を〔使役〕に訳すか〔受け身〕に訳すかは大まかに下線部の **nexus** にあたる部分が文の主語にとって都合がよいか、そうでないかで決まるのである。

「have + 目的語 + 過去分詞」の文型は **have** の代わりに **get** を使うこともできる。また、過去分詞の代わりに原形や現在分詞を用いる場合もある。

John got his arm broken while playing rugby last Saturday. 「ジョンは先週土曜日ラグビーをしている時腕を折った。」(CULD)

【指導】 I had my watch fixed. (使役動詞 + O + 過去分詞)の指導は次のように行う。

T: I had him fix my car. という文を考えてみましょう。下線部はどのような文が隠されていますか、S1 君。

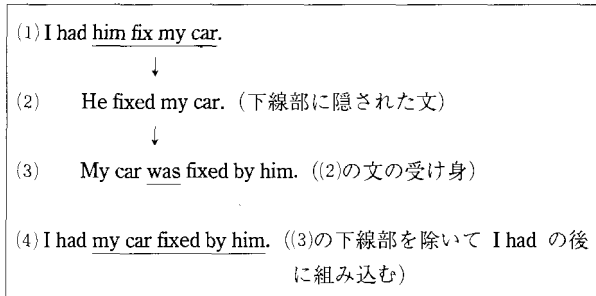
S1: He fixed my car. です。

T: Good. ではこの隠された文を受け身にしてみましょう。どうなりますか。S2 さん。

S2: My car was fixed by him. です。

T: Very good. ではこの受け身の文を I had に入れてみましょう。

(板書)



さて、(1)の文の下線部を受け身にしたのが(4)の文です。ですから、(1)と(4)とでは形式は変わっていますが内容は変わらないのです。従って、(4)の意味が分からない場合は(1)で訳していけばいいのです。(1)と(4)の文を日本語にしてみてください。S3 君。

S3: 「私は彼に車を修理させた」です。

T: Very good. S3 君の訳は(1)の使役の **have** を使った文から考えたのではないですか。

S3: そうです。

T: 同じ訳が(4)の場合にも当てはまるのです。(1)の文も(4)の文も場面によって have を「～させる」や「～してもらう」のように訳していけばよいのです。

次の文を考えて下さい。My wife had her passport stolen. (LGS) S4 さん。

S4: 「私の妻は自分のパスポートを盗ませた」ですか、変ですね。

T: その訳では変ですね。訳は「私の妻はパスポートを盗まれた」となるのです。have + O + 過去分詞の have にはこのように「～される」と訳す場合があります。では、どういう場合に「～させる」と訳して、どういう場合に「～される」と訳すのでしょうか。2つを並べてみましょう。

I had my car fixed. My wife had her passport stolen.

下線部から隠れている文を取り出すと、

(1) My car was fixed. (2) Her passport was stolen.

のようになりますね。(1)の文の内容は I つまり、「私」にとって都合のよいことがらになっているのがわかりますか。一方、(2)の文の内容は my wife にとって都合の悪いことになっているのが分かるでしょう。

このように主語にとって隠された文の内容が都合のよいことなら「～させる、～してもらう」と訳し、都合の悪いことなら「～される」と訳すとよいのです。

指導例

sentence の中での指導：Please have these dress cleaned. (MEF)

My wife had her passport stolen. (LGE)

He had us laughing all through the meal. (PEU)

(35) 受動態

Do's and Don'ts 59

受け身の文を能動態の文と同じ場面で使われると考えてはいけない。受け身の文の by 以下は新しい情報であり、能動態の主語は旧情報である。この違いを承知して2つの使い分けをする必要がある。

Tom broke the window. の受動態は The window was broken by Tom. である。中学校でも高等学校でも両者は同じ意味だと教えている。が、この二つの文の違いについて PEU は次のように述べている。

'Compare the following two sentences.

Your little boy broke my kitchen window this morning.

That window was broken by your little boy.

The choice between active and passive constructions often depends on what has already been said, or on what the listener already knows. We usually like to start

sentences with what is already known, and to put 'new' information later in the sentence. In the first example above, the listener does not know about the broken window, so the speaker makes it the object of the sentence. In the second example, the listener knows about the window — it is being pointed out to him, he can see it — so the speaker uses the passive construction; in this way he can put the window first, and keep the new information (who broke it) for later in the sentence.'

「能動態か受動態かの選択はすでに何が言われているか、つまり聞き手が何を知っているかによる場合が多い。文を始める場合、すでに知っていることから始め、新しい情報は文の最後の方に置くのが普通である。最初の文では聞き手は割れた窓のことを知らない。そのため、話し手は割れた窓を文の目的語として文末に置いたのである。第2の文では聞き手は窓のことを知っている — つまり、聞き手にその窓が指摘され、聞き手はその窓を見ているわけである — そこで話し手は受動態を使い割れた窓を先に置き、新しい情報である、誰が窓を割ったかを文末に置いたのである。」

この説明からも分かるように、A does B. という能動態の文ではBが新情報として文尾に置かれ、B is done by A. という受動態の文では by A が新情報として文尾に置かれるというのである。従って、能動態の文を使うか、受動態の文を使うかはどのような情報が文尾に置かれるか、によるということになる。例えば、The boy wrote the letter. という文は What did the boy do? に対して、The boy (he) wrote the letter. という場面で使われるし、The letter was written by him. という文は Look at this letter. It was written by him. のような場面で使われるのである。同じことが、2重目的語をとるかそうでないかという SVOO の文型の場合にも見られる。例えば、(1) Give the dog the bone. と(2) Give the bone to the dog. の違いである。(1) は What shall I give to the dog? に対して、Give the dog the bone. 「骨だ、あの骨だ」と言っているのに対して、(2) は猫に骨をやろうとしている人に対し、No, give the bone to the dog. 「だめ、だめ、犬にやっつて」という場面なのである。このように新情報・旧情報という考えを文の解釈に入れていくとうまく解釈できる場合がある。
[指導] 受動態の文の意味の指導は次のように行う。

T: 次の対話文を見て下さい。

A: The store is crowded.

B: That's because there's a big sale going on right now.

A: Oh, that's why it's so popular.

(Shine On Nordyke & Worthington Seido L.I. 1995)

意味はわかりますか, S1 君。

S1: A が, この店込んでるね, と言うと, B が, それは今バーゲンをやっているからだ, と答え, すると, A が, だから人が多いんだ, と言っています。

T: Very good. では情報の伝達という観点でもう一度見てみましょう。最初の A の発言で新しい情報というのは何だと思えますか, S2 さん。

S2: 「込んでいる」ということですか?

T: Good. 次の B の文ではどうでしょう, S3 君。

S3: 「今, バーゲンをやっている」ということです。

T: Good. 次の A の文ではどうでしょう, S4 さん。

S4: 「人が多い」ということです。

T: Very good. 各文の始めの情報は古い, つまり旧情報だということですね。旧情報を O, 新情報を N で表して並べてみましょう。最初の A から (O N) (O N) (O N) ということになっているのがわかりますか。つまり新情報は文尾に来るのです。では, 次の文をそういう観点で見てください。

(1) John bought the car. (2) The car was bought by John.

この2つの文の違いがわかりますか, S5 君。

S5: (1)は the car が新情報で, (2)は by John が新情報です。

T: Good. ではどういう場面かを考えてみましょう。(1)では「彼が買ったのはあの車だ」と言っているのに対し, (2)では「その車を買ったのはジョンだ (メアリーではない)」というような場面です。能動態と受動態とでは意味がどのように違うのです。

指導例	<p>sentence の中での指導 : He'll send the parcel tomorrow. / The parcel will be sent by him tomorrow. (ESP) The two islands are joined by a bridge. (LFD)</p> <p>The whole city was destroyed by the earthquake. (LJED)</p>
-----	---

(36) 後置修飾一文の名詞化(1)

Do's and Don'ts 60

前置詞句, 分詞などの後置修飾を指導するのに, 前置詞句が前の名詞を修飾すると矢印で説明するだけではいけない。文の名詞化という考え方を導入しておくと便利である。

後置修飾を指導する場合, 次のように文を板書しての指導になる。

The cat on the desk is cute. 説明：下線部の on the desk (机の上の) は
 ↑
 前の名詞の the cat を説明する。

ところが、この指導では、名詞を修飾するのになぜ後置かという疑問に答えられないばかりか、日本語が前置であるためにその影響を受け、前置詞句の位置を誤ってしまう場合が多いのである。これに対して、後置修飾を名詞化という考え方で指導する方法がある。例えば、He has a book. は his book という形で、The girl is beautiful. は a beautiful girl で名詞化される。名詞化にはいくつかのルールがある。そのうちの1つがbe動詞を除去する方法である。この方法で名詞化が行われる場合をあげてみよう。

- (1) 前置詞句： The boy is in the room. → the boy in the room
- (2) 現在分詞（進行形）： The boy is playing tennis. → the boy playing tennis
- (3) 過去分詞（受動態）： The book was written by him. → the book written by him

このプロセスを使って指導すると後置修飾は簡単に指導できるのである。（具体的には[指導]の項で）では the playing boy や the beautiful girl のように分詞や形容詞が前置される場合も be 動詞の除去というルールが当てはまるのだろうか。当てはまるのである。次のプロセスを見てみよう。

The boy is playing. → (be 動詞の除去) → the boy playing → (残った分詞の語順変更) →
 the playing boy Process 1 Process 2

上の Process は the boy is playing の be を除去すると、the boy playing となり、進行形の形では分詞が残るだけになる。このように、be を除去すると残るのが分詞1語だけの場合はその語を前の名詞（ここでは boy）の前に置くというルールを使えばよいのである。Process 2 で使った語順変更のルールは The girl is beautiful. の場合（残った語が分詞の代わりに形容詞1語となっている）も、The window was broken. の場合（残った語が分詞1語）にも当てはまるのである。文の名詞化の1つはこのように be 動詞の除去というルールを使って簡単に説明できる。

分詞や前置詞句の後置修飾の場合、その時制が表れない。つまり、the language spoken by them は元の文で示された動詞がないため、今話されている言語か過去に話された言語かが分かりにくい場合が生まれてくる。

この文の名詞化を使った指導法では、元の文から考えるため名詞句の「時」が理解し易いという利点もある。

[指導] 後置修飾の指導は次のように行う。

T: The boy is playing tennis. という文の意味はわかりますね、S1 君。

S1: 「その少年はテニスをしている」です。

T: Good. その日本語を名詞にして下さい。意味が分かりますか。「その少年はテニスをしている」は文ですね。この文から名詞を作ってみましょう。例えば、「その木は大きい」から「大きな木」ができますね。このようにして名詞を作ったらどうなりますか、S2さん。

S2: 「テニスをしている少年」です。

T: Good. では The boy is playing tennis. から「テニスをしている少年」を作る方法を考えてみましょう。実は簡単なのです。be 動詞、ここでは is ですね、is を取り除いた、the boy playing tennis が「テニスをしている少年」なのです。すこし練習してみましょう。日本語で文を言いますから、その文からできる名詞を英語で言って下さい。いいですか。「その男性は昼食を食べている」、S3さん。

S3: the man eating lunch です。

T: Very good. では、こんな日本語ではどうですか。「その猫は机の下にいる」、S4君。

S4: the cat under the desk ですか。

T: Very good. うまくできましたね。では、この場合ではどうでしょう。「その少女は歩いている」です。S5さん。

S5: The girl is walking. ですから the girl walking ですか。

T: これまでのやり方だとそうですね。ところが、The girl is walking. の進行形の文から be を取り除くと walking という分詞が1語残るだけになります。つまり、S5さんが言った the girl walking です。これをもうひと工夫するとできるのです。つまり、walking という語を girl の前にだす、という操作です。the walking girl がもとの文からできた名詞なのです。このように、be を取り除いた後に、現在分詞や過去分詞、あるいは形容詞が1語だけ残った場合は名詞の前に置くことにして、それ以外は be を取り除けばよい、というように覚えておきましょう。

指導例

sentence の中での指導：The man having lunch at the next table is a doctor. (KE)

Cheese and butter are products made from milk. (LFD)

The foreign student in my class is from Mexico.

⑦ 後置修飾一文の名詞化(2)

Do's and Don'ts 61

関係代名詞を「～のところの」という日本語にはいけない。単に、文を名詞にする合図の語として、日本語訳をしないのがよい。それには文の名詞化の考え方を導入して指導するのがよい。

関係代名詞を日本語にすると、「～のところの」という訳をする場合が多い。この訳は関係代名詞を2文連結で指導した結果ではなかろうか、と思われる。つまり、2つの文を関係代名詞を使って繋ぐため、その関係代名詞をどうしても訳さなくてはならない、という事態になっていると考えられるのである。ところが関係代名詞の指導を名詞化という考え方で指導すると、目的格の関係代名詞は必ずしも必要ないし、主格の関係代名詞は名詞化のための合図としての必要もなく、who / which / thatなどは日本語にする必要がない。例えば、She has everthing that a woman could wish for. (GPU) を関係代名詞を訳さないで、「彼女は女性として望みうるものはすべて持っている」と訳す方が普通であろう。では、関係代名詞の指導を考えてみよう。これまでは次のようなプロセスでの指導がほとんどであった。

I. 関係代名詞の指導（2文連結での指導）

1. 君が昨日買った本はどこにあるの？
(この文を関係代名詞を使った文で書くことを指導)
2. 本はどこにあるの？ 君は昨日その本を買った。
(1の文を2つの文に分ける)
3. Where is the book? You bought the book yesterday.
 ↑ ↑
 同じ物 ↑
(それぞれの文を英語で書く)
4. Where is the book? You bought that yesterday.
(同じ物を表す the book を that / which に代える)
5. that you bought yesterday
(代えた that / which を You bought の前に出す)
6. Where is the book that you bought yesterday?
(5の that 以下を the book と同じ物を表す最初の文中の book の後に続ける)

これに対して文の名詞化による指導のプロセスは次のようになる。

Ⅱ．関係代名詞の指導（文の名詞化による指導）

1. 君が昨日買った本はどこにあるの？
(この文を関係代名詞を使った文で書くことを指導)
2. 君が昨日買った本 (1 から「文からできた名詞」を抜き出す)
3. 君は昨日その本を買った。 (2 を文に戻す)
4. You bought the book yesterday. (3 を英語にする)
5. the book you bought yesterday (2 で最後に来た名詞(本)にあたる、
4 の the book を you bought... の前
に出すと英語の名詞化が完了)
6. Where is the book you bought yesterday?
(4 を「どこにあるのか Where is」に続ける)

この2つのプロセスを比較してみよう。Ⅰのプロセスでは 2 の段階で2つの英文を作らなければならない。

これに対して、Ⅱのプロセスでは 4 の段階で1つの文を英語にするだけでよいのである。最初に2つの文を作ることと、1つの文だけでよいのでは、生徒にとっての負担は後者の方がすくないはずである。次に、「君がいちばん好きな色をえらんでごらん」のような文を考えて欲しい。Ⅰの場合だと、この文を Choose the color. You like the color best. という2つの文に分けることになる。その際、Choose the color you like best という文の choose the color と、2つに分けた前半の文 Choose the color. は同じ意味になっているのだろうか、という疑問が生まれる。もう1つ例を出してみよう。Is this the train that stops at Kokura? という文を Is this the train? と The train stops at Kokura. に分けた場合、Is this the train that stops at Kokura? の is this the train と Is this the train? の文の意味は異なっているはずである。このように関係代名詞を使った文を2つに分けると、ちょうど Is this the train? のようになんとなく抵抗感のある英文が生まれる場合がある。また、The boy I met was Tom. という文を作りたい場合、The boy was Tom. と I met the boy. の2つの文から作らせていくと、The boy was Tom that I met. という文が生まれてしまうのである。さらに、2文連結での指導だと関係代名詞を使って文を繋ぐため、その関係代名詞の意味をどうしても示す必要が出てくる。その結果が「～のところ

の」の訳の出現なのである。

(英和辞典の中には関係代名詞を「～のところの」という訳をしめしてあるものもある。) これらの問題は関係代名詞の指導にあたって2つの文を使うことから生じると考えられ、その解決策として考えられるのがこの名詞化を利用した指導の仕方なのである。

〔指導〕 関係代名詞の指導は次のように行う。

T: 関係代名詞の説明をしましょう。その少年は犬を飼っている、を英語で言う
とどうなりますか、S1君。

S1: The boy keeps a dog. です。

T: Good. それでは、もう一度日本語の方に戻って下さい。「その少年は犬を飼っている」という文から名詞を作ってみましょう。例えば、「彼は本を買った」という文からは「彼が買った本」という名詞ができます。では、「その少年は犬を飼っている」からはどういう名詞ができるでしょう。S2さん。

S2: 「少年が飼っている犬」ですか。

T: Very good. ではその英語をどうすればよいかを、板書で説明しましょう。

(板書)

[文]	(日)	その少年は犬を飼っている。	(英)	The boy keeps a dog.
[名詞]	(日)	その少年が飼っている犬		

日本語の文を名詞にすると最後に「犬」という語が来ますね。この「犬」にあたる英語の名詞を英文の最初に出せば英語の名詞ができるのです。つまり、a dog the boy keeps です。

(板書 I)

[文]	(日)	その少年は <u>犬</u> を飼っている。	(英)	The boy keeps <u>a dog</u> .
[名詞]	(日)	その少年が飼っている <u>犬</u>	(英)	<u>a dog</u> the boy keeps

日本語では文を名詞にする場合にはその名詞を文末に置けばいいのに対し、英語では文頭に置くのです。これが (be 動詞を除去するのとは違う) もう1つの名詞化のルールなのです。この a dog the boy keeps の a dog と the boy の間に that / which を置いても構いません (文頭に出した語が人間の場合には that / who です) a dog that / which the boy keeps という英語にしてもよいのです。この名詞を使って文を作ってみましょう。例えば、「私はそ

の少年が飼っている犬が欲しい」というと、a dog the boy keeps の前に I want を置いて、I want a dog that the boy keeps. では、もう1つ、今度は皆さんがやってみて下さい。「その少年がかっている犬は大きい」です。今度は the dog that the boy keeps でやってみましょう。S3 君。

S3: The dog that the boy keeps is big. ですか。

T : Very good.

S4: 質問があります。「その少年が犬を飼っている」という文を名詞にすると、「犬を飼っている少年」という名詞もできませんか。

T : よい所に気が付きましたね。その通りです。「犬を飼っている少年」という名詞もできます。では、この名詞の作り方をやってみましょう。

(板書)

[文]	(日)	その少年は犬を飼っている。(英) The boy keeps a dog.
[名詞]	(日)	犬を飼っている少年

日本語の文を名詞にして最後にきた名詞（少年）を英語の場合は文頭に出せば英語の名詞化が行われるのでしたね。そのプロセスでやってみましょう。まず、文を名詞にするには少年にあたる英語を文頭にだすのでしたね。文頭に出すと元々あった所が空欄になります。このままほうっておくと元の文になってしまうので、この空いた所に、文頭に出した語が人間の場合は that / who を、そうでなければ that / which を置くと名詞になるのです。that / who (which) はいわば文を名詞化するための道具なのです。そのプロセスを以下に書いてみましょう。

(板書Ⅱ)

プロセス	文 → 名詞
1. [文]	The boy keeps a dog.
2. 下線部を文頭に出す	the boy <input type="text"/> keeps a dog ↑
3. 空いた欄に、出した語（少年）が人間なら who / that を、そうでなければ which / that を入れる	the boy <input type="text"/> who keeps a dog
4. [名詞]	the boy who keeps a dog

これで、「犬を飼っている少年」という名詞ができました。これを使って文

を作ってみましょう。「犬を飼っているその少年は彼女より2歳若い」はどうですか、S4さん。

S4: The boy who keeps a dog is two years younger than she. です。

T: Very good. もう1つの関係代名詞をやってみましょう。「その少年のお父さんは医者です」という文を英語にしてみてください、S5君。

S5: The boy's father is a doctor. です。

T: Very good. The boy's father is a doctor. この文から、「~の少年」という形で終わる名詞を作ってみてください。できますか、S6さん。

S6: 「お父さんが医者をしている少年」です。

T: Good. では、先ほどの The boy's father is a doctor. から「お父さんが医者をしている少年」を作ってみます。まず、日本語で最後にきた名詞、つまり「少年」にあたる英語の the boy を文頭にします。

The boy 's father is a doctor. この英文を見て下さい。the boy を文頭に出すと、もともと the boy があつた所が空欄になり、残るのは所有格を表す 's だけということになっています。そこで、その空欄に文を名詞にするための合図の語 who を入れるのです。そうすると、The boy 's father is a doctor となりますね。 's は who の所有格ということですから、それを whose に代えることができあがるのです。このプロセスを以下に書いてみましょう。

(板書Ⅲ)

プロセス	文 → 名詞
1. [文]	The boy's father is a doctor.
2. 下線部を文頭に出す	<u>the boy</u> <input type="text"/> 's father is a doctor ↑ <input type="text"/>
3. 空いた欄に、出した語(少年)が人間なら who を、そうでなければ which を入れる	the boy <input type="text"/> who 's father is a doctor
4. <input type="text"/> 's を whose に代え名詞に	the boy whose father is a doctor

以上の3つのやり方のうち、板書したⅠは目的語を移動させたもので、that / which は目的格の、Ⅱは主語を移動させたもので、主格の、Ⅲは所有格を使ったもので所有格の関係代名詞とそれぞれ呼ばれています。すべて関係代名詞は、日本語にする必要はなく、それぞれが、文を名詞にするための合図となっていることに注意して下さい。また、関係代名詞を使った文ではその関係代名詞を日本語に訳さないようにして下さい。

指導例

sentence の中での指導 : I don't like people who lose their tempers easily. (PEU)

I met an old friend I hadn't seen for years.
(EIU)

Someone whose health is as bad as that can't be expected to do a full-time job. (WBW)